

公益社団法人 国際医療技術財団主催
第 2 回 JIMTEF 災害医療研修アドバンスコース受講報告

一般社団法人 愛知県鍼灸師会 常任理事
組織部長 児山 俊浩



日 時：平成 27 年 2 月 14 日（土） 9 時～17 時 20 分

協 力：独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター

会 場：独立行政法人 国際協力機構 東京国際センター

参加団体：(公社) 日本鍼灸師会 14 名、(公社) 日本柔道整復師会 11 名、(公社) 日本理学療法士協会 6 名、(一社) 日本作業療法士協会 6 名、(一社) 日本言語聴覚士協会 5 名、(公社) 日本栄養士会 4 名、(公社) 全日本鍼灸マッサージ師会 3 名、(公社) 日本歯科技工士会 2 名、(公社) 日本医療社会福祉協会 1 名、(公社) 日本臨床工学技士会 1 名、(一社) 日本臨床衛生検査技師会 1 名、合計 54 名 (※人数順・50 音順)



1. 講義 1 「国際人道支援に学ぶ支援方策」

1) 「スフィア・プロジェクト」 講師：国立病院機構災害医療センター 千島 佳也子先生

スフィア・プロジェクトとは、1997年に人道支援を行う国際 NGO 団体と国際赤十字・赤新月運動によって発足された、人道支援の主要分野全般に関する最低基準づくりのためのイニシアティブである。94年のルワンダ大虐殺がきっかけとなっている。目的は、災害援助における行動の質を向上し、説明責任を果たすことである。人道対応の基準として最も広く知られ、国際的に認識されており、機関相互のコミュニケーションや調整のためのツールとして知られている「スフィア・ハンドブック」が、無料でダウンロードが可能です。(認定 NPO 法人難民支援協会：<https://www.refugee.or.jp/sphere/>)。

2) 「人道支援の実際」 講師：独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 大友 仁先生

①日本の緊急援助体制、②国際救援に関する調整システム、③国連を中心とした国際緊急援助の歴史、④国際災害援助現場調整システム (クラスターアプローチ)、⑤人道支援における Accountability の重要性、⑥海外医療チーム (FMT) の能力基準設定と登録制度の必要性、⑦JDR の台風ヨランダの活動状況についての講義内容でありました。

2. 講義 2 「災害医療コーディネーター」 講師：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎先生

①災害医療コーディネーターのあり方、②指揮系統の確立・組織の形成：CSCA、③作戦立案の要諦：TTT、④災害医療コーディネーターの心構えについての講義内容でありました。

3. 講義 3 「本部運営と記録」 講師：国立病院機構災害医療センター 市原 正行先生、大野 龍男先生

ホワイトボードで共有すべき情報として、①経時活動記録 (クロノロ)、②問題・解決リスト、③活動方針、④指揮系統図と活動部隊・人員と現在の活動、④主要連絡先、⑤患者・患者数一覧表、⑥被災状況・現場状況 (地図) について本部に入ってくる情報の整理・記録について学びました。

4. 講義 4 「本部運営実習」 講師：国立病院機構災害医療センター 小早川 義貴先生

国立長寿医療研究センター 浅野 直也先生

実際の被災地のある現地対策本部での実習を各グループで行いました。現地の病院や活動団体からの多くの情報について、リーダーからの経時的活動記録 (クロノロ)、指揮系統図に反映する実習を行いました。私は、経時的活動記録 (クロノロ) を担当しました。実際行ってみると予期せぬことも多く発生するのが現場であり、情報の整理・記録というのは、混沌とした現場においてはとても難しいものであると感じました。しかし、この情報の記録というのは、現地においてとても重要であることが理解できました。



5. 講義 5 パネルディスカッション「次の災害に備える」 講師：神戸学院大学 中田 敬司先生

国立長寿医療研究センター 浅野 直也先生

国立病院機構災害医療センター 小早川 義貴先生

「次の災害に備える」をテーマに、各団体による発表ならびにディスカッションが行われました。(一社)福島県鍼灸師会より中沢 良平先生が発表をされました。東日本大震災後に設置された団体内の組織・部門、その活動内容について発表をされました。平時の鍼灸ボランティア活動が災害時のトレーニングとなっていること、地域災害システムは地域包括ケアと同じ考えであり、常に地域の医療チームに鍼灸師が入っていること、鍼灸は日本古来の地域・家庭医療であることについてお話をされました。



6. 講義 6 「赤十字の国際医療救援」 講師：日本赤十字社国際部 佐藤 展章先生

①赤十字の支援の特色、②赤十字の緊急対応システム、③日赤基礎保健 ERU による活動、④日本国内の医療救護対応についての講義内容でありました。

7. 講義 7 「JDR (国際緊急援助隊) の災害医療活動」 講師：国立病院機構災害医療センター 小井土 雄一先生

①国際緊急援助隊 JDR に関わったきっかけ、②JDR 医療チームの誕生の経緯、③JDR 医療チームは如何に派遣されるか?、④JDR 医療チームの現地での活動は?、⑤JDR のやりがいは何?、⑥JDR のこれからについての講義内容でありました。

<感想>

JIMTEF ベーシックコースをふまえた上でのアドバンスコースの内容でありました。実際の災害時において必要な内容であり、リアルな勉強ができたと思います。そして、平時からの連携、顔の見える関係が災害時においてとても大事であること、平時のボランティア活動が災害医療のトレーニングになることについてとても大きな気づきとなりました。いっどこで発生するかわからない災害について、今から準備していくことが必要であると思います。災害医療について、各地方で研修するにあたって DMAT 講師をご紹介いただけるので、研修会としての検討もできればと考えます。